

## 東京学芸大学 家庭科教室 住居学研究室

### 住生活を工夫し，創造する力を育む

東京学芸大学は教員養成系の単科大学です。私は2015年4月に着任し，家庭科教室で住居学を担当しています。小学校教員や小学校・中学校・高等学校の家庭科教員の養成に携わっています。

今，こちらをご覧になっている方の中には，「家庭科って何を学習するの?」「家庭科と言えば調理や裁縫!住居って何?」と思われる方もいらっしゃるかもしれません。以前は，女子が食物・被服などの家庭科を学び，男子は電気・機械など技術科を学んだり，体育の授業を受けたりしていましたが，家庭科は1994年に男女共通必修（男女共修）となりました。現在，40歳以下の方は，家庭科男女共修世代となります。また，かつての家事・裁縫教育から脱却し，現在は，生活の営みに関わる「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」について広く学習しています。

この中で，私は住生活領域を担当しています。住生活領域の学習時間は，家庭科の時間でも他の領域に比べると残念ながら短いのですが，生活の器としての住まいの大切さや，環境調整，住まいの管理の必要性を伝えるために日々試行錯誤しています。環境調整や住まいの管理と関わり，カビ，ダニや，化学物質による室内空気汚染，暑さ・寒さの調整，光・

音環境については，健康で快適な住環境を取り巻く因子として，小学校から高等学校までに家庭科の中で度々取り上げられている大切な学習事項です。

現在，研究室には院生（修士課程）2名，学部4年生3名，3年生6名が在籍しています。卒業論文や修士論文のテーマとしては，広く住生活に関わる内容を取り上げ，また，小学校・中学校・高等学校の家庭科で用いるための教材開発やその活用方法の検討も行っています。

私自身の研究テーマとしては，卒業研究として揚げ物調理時に発生するにおいおよび汚れ環境を取り上げたことをきっかけに，その後も，居住者の換気行動や空気質に対する意識，住まいのにおい環境やにおい意識に関する調査・研究を継続して行っています。最近では，内装木質化による室内環境や居住性への影響の検証にも取り組んでいます。いずれの研究テーマにおいても，居住者の立場から，環境改善の方法を探り，どのような知識を獲得して生活に活かしていくか，ということを中心に意識する様に行っています。また，研究成果は，健康で快適な住生活を創造する力を育むため，家庭科教育に還元していきたいと考えています。

（萬羽郁子）



卒論発表会後に研究室の皆で記念撮影



小学校家庭科における換気実験の様子  
（教材検討）